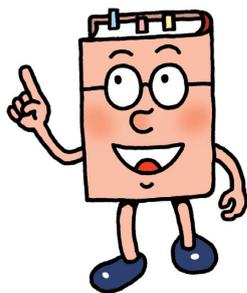


新しい漢字を学ぼう

1

●マンガで学ぶ漢字は、16ページから37ページで使われています。



1 — の漢字に気をつけて、つぎの文を読みま
しよ。うい。

- ① 中央の階だんを上ってください。
- ② 上級生に漢字の読み方を教わった。
- ③ 新学期をむかえて、はりきっている。

④ あやまったら気持ちチが軽クくなった。

⑤ ころんで、ひざから少し血クが出た。

⑥ 家ぞくで、海に近いみん宿ドにとまった。

⑦ つな引きで、ぼくたちが勝トった。

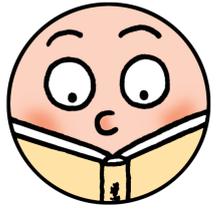
2 つぎの文しよつを讀みましよう。

姉が合宿ドから歸つてきた。かばんを、二階ノのへ

やまで持ツっていつてあげた。

<ul style="list-style-type: none"> ・キユウ 	級	<ul style="list-style-type: none"> ・キ 	期
	級級級級級級級級級級		期期期期期期期期期期
<ul style="list-style-type: none"> ・学級会 ・上級生 	9画	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 ・一学期 	12画

<ul style="list-style-type: none"> ・シヨウ ・かつ 	勝	<ul style="list-style-type: none"> ・シユク ・やど／やどゝる／やど 	宿
	勝勝勝勝勝勝勝勝勝勝		宿宿宿宿宿宿宿宿宿宿
<ul style="list-style-type: none"> ・ゆう勝 ・うち勝 つ 	12画	<ul style="list-style-type: none"> ・宿直室 ・雨宿り 	11画



場面の様子を思い浮かべながら読もう

おにたのぼっし

あまん きみこ 作
くろい けん 絵
黒井 健

せつ分の夜のこたごです。

まこと君が、元気に豆まきを始めました。

らぼ らぼ らぼ らぼ らぼ

まこと君はいりたての豆を、力いっぱい投げました。

「福はあ内。おにはあ外。」

茶の間も、客間も子どもべやも、台所も、げんかんも手あらいも、ていねいにまきました。そこで、まこと君は、

「そうだ、物おき小屋にも、まかなくつちや。」
と言いました。

その物おき小屋の天じょうに、去年の春から、小さな黒おにの子どもが住んでいました。「おにた」

という名前でした。

おにたは、気のいいおにでした。

きのうも、まこと君に、なくしたビー玉を、こっそり拾ってきてやりました。この前は、にわか雨のとき、ほし物を、茶の間に投げこんでおきました。お父さんのくつつをび



かぴかに光らせておいたことでもあります。

でも、だれも、おにたがしたとは気がつきません。はずかしがりやのおにたは、見えないように、とても用心していたからです。

豆まきの音を聞きながら、おにたは思いました。

（人間っておかしいな。おには悪いって、決めているんだから。おににも、いろいろあるのにな。）

★ 気のいい

★ 用心する